

2026年度事業計画



明治大学
MEIJI UNIVERSITY

目 次

はじめに	1
I 学校法人明治大学 長・中期計画及び事業計画について	2
II 教学改革と教学運営体制の確立	3
III 教育	4
IV 学生支援	5
V 研究	6
VI 社会連携・社会貢献	7
VII 附属高等学校・中学校	8
VIII 管理・運営	9
IX 施設設備整備計画	10
X 財務関係	11



学校法人明治大学では、2031年の創立150周年に向けて長期ビジョン「MEIJI VISION 150—前へ—」を策定し、本学が未来に果たすべき役割と、実現すべき姿を明確にしております。このビジョンのもと、第3期中期計画（2022年度～2026年度）では、教育・研究の質のさらなる向上、学生支援の充実、社会連携の強化、国際性の深化、そして持続可能な大学経営の確立を柱に、具体的な目標と実行計画を定めてまいりました。本年度の事業計画は、その最終年である2026年度に位置付けられ、これまでの取り組みを結実させる重要な一年となります。

また、本学の歴史と伝統を象徴する駿河台キャンパスについては、かねてより検討を重ねてきた「駿河台キャンパス総合施設整備計画」が昨年10月の評議員会で承認され、本格的に始動いたします。駿河台と中野キャンパスの機能を統合し、次世代の教育・研究拠点を構築するこの大規模プロジェクトは、本学のさらなる飛躍に向けた重要な節目となる取り組みです。

明治大学が「世界に開かれた大学」「世界に発信する大学」として輝き続けるため、全学一丸となって取り組んでまいります。創立150周年、そしてその先の未来へと歩みを進める本学に、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

学校法人明治大学 理事長 柳谷 孝



明治大学は、建学の精神「権利自由、独立自治」のもと、多様な「個」を磨き、自ら未来を切り拓き、他者と協同して時代に変革をもたらす人材を育成してきました。

現在は、長期ビジョン「MEIJI VISION 150—前へ—」のもと、持続可能な社会の実現に向けて教育・研究活動を推進し、掲げた重点目標を達成すべく、第3期中期計画、事業計画、及び、年度計画において具体的な目標を定め、実行しています。

2026年度、私たちはさらに一步「前へ」進み、総合性と多様性を尊重する教育・研究環境を拡充します。複雑化し、単一の視点では解決できない課題が増えるなか、複数の視点をもち、世界社会で活躍しうる未来を切り拓く力を涵養するため、副専攻プログラムをはじめとした多分野連携型教育プログラムを進展させてまいります。

また、知の基盤である研究においては、新たに整備したサバティカル研究制度や明治大学リサーチアドミニストレーションセンター（URAセンター）の展開等を通じ、国際研究ネットワークの拡充、特色ある研究の推進、若手研究者支援の推進など、挑戦的研究に専念できる環境整備と研究力の一層の向上を図ります。

こうした取り組みを通じて、本学は社会に信頼される大学として、また未来を支える確かな基盤として、本計画を道標に教育・研究の質の向上を進め、2031年の創立150周年を、さらにその先の未来を見据え、今後も次の「暁の鐘を撞く」人材の育成に取り組んでまいります。

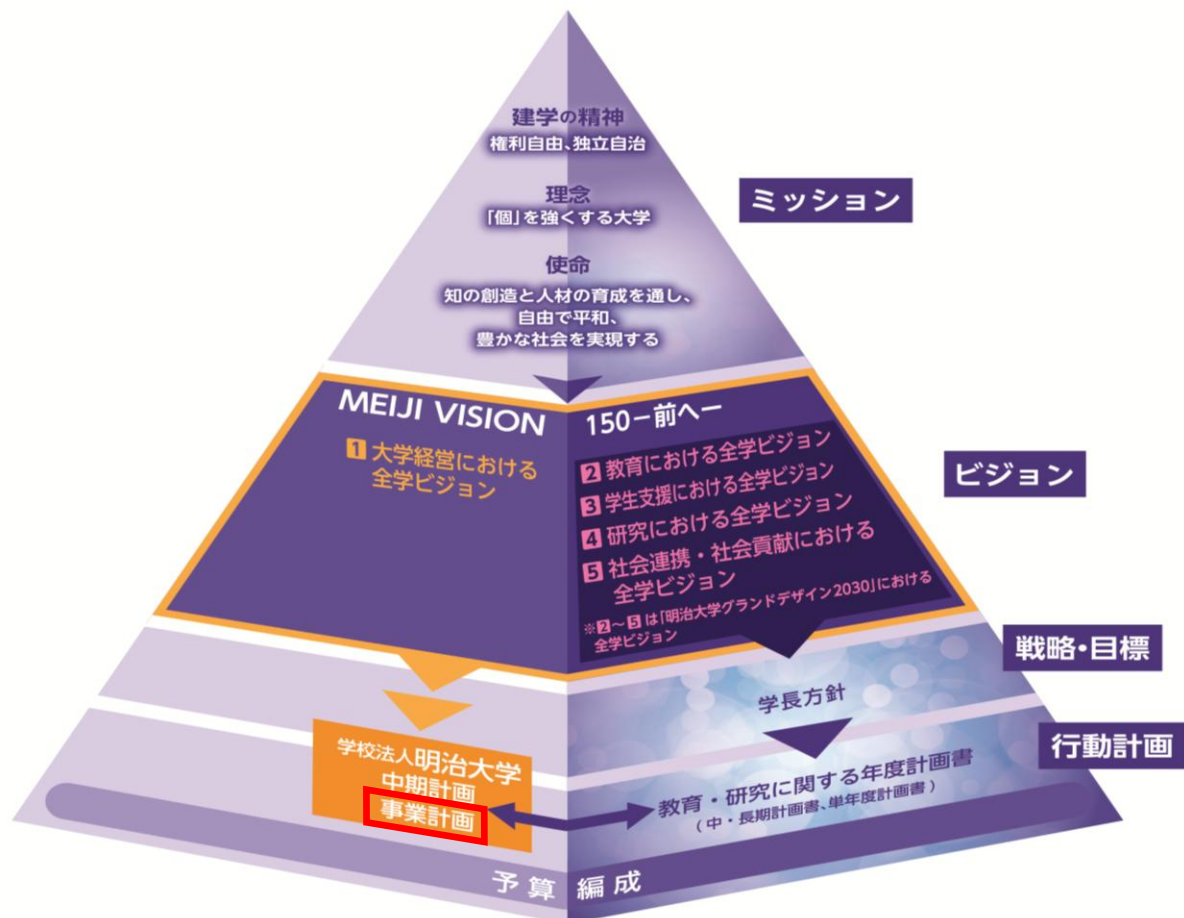
明治大学 学長 上野 正雄

I 学校法人明治大学 長・中期計画及び事業計画について

明治大学は「権利自由、独立自治」の建学の精神に基づき1881年に創立されました。その後、女性の教育機会の「平等」を実現しました。そして、日本国憲法の下で「平和」の実現を目指し、さらに、今日「個の尊重」の理念にも通じる「多様性の尊重と包摂性」の理念を掲げています。明治大学は、普遍的な知の創造と多様な人材の育成を通して、自由で平和、豊かな社会を実現させる研究・教育の拠点となります。

21世紀の現在、グローバル化の急速な進展に伴い、社会的・経済的格差の顕在化など、世界は混迷を深めつつあります。明治大学は、こうした現代社会が抱える諸問題に真摯に向き合い、問題解決への取り組みを重ねることにより、持続可能な社会の創出に貢献していきます。また、共創的未来へと前進するべく、これからも多様な「個」を磨き、自ら切り拓く「前へ」の精神を堅持し、時代を変革していく人材を育成します。

2031年、明治大学は創立150周年を迎えます。これまで推進してきた長期ビジョンをさらに発展的に展開していくため、2019年に発表した「明治大学グランドデザイン2030」に基づき、「MEIJI VISION 150-前へ」を策定し、10年後の明治大学のあるべき姿をビジョンとして位置付けるとともに、具体化に向けてその方針を定めます。「MEIJI VISION 150-前へ」の下に策定する中期計画、事業計画を実行することで、その実現に向けて「前へ」邁進します。



II 教学改革と教学運営体制の確立

建学の精神と理念に基づく教育・研究活動水準を向上させるための改革に取り組むとともに、教学運営を永続的に推進する体制を確立します。

1 重点推進課題

- (1) 多分野連携型教育プログラムの導入
- (2) 学生の国際流動性の促進とキャンパスの国際化の推進
- (3) 入学者の質と多様性を確保するための入試改革の推進
- (4) 研究の活性化推進のための環境整備
- (5) ウェルビーイング向上のための教育研究環境整備
- (6) 教育・研究・社会貢献を実現する施設整備

2 教学運営体制の確立

(1) ウェルビーイングの推進

仕事とプライベートが相乗的に作用し合って、充実感をもって教育研究ができる環境を整備するために、教員一人ひとりのライフステージに応じたウェルビーイングの実現とそれを支える大学全体のウェルビーイングの向上を推進します。

(2) 業務効率化の推進

教育研究の充実・質向上のために、入試業務の負担軽減や AI の教育研究への適切な利用等、業務の効率化に向けた体制整備を推進します。

(3) 教育研究施設整備の推進

教育研究の基盤となる教育研究施設の整備について、適切な情報公開の下に各キャンパスの特性を生かした施設整備を推進します。あわせて、地域・社会との連携を考慮します。

(4) 高大連携の推進

18歳人口の減少を見据え、安定した入学者を確保し、同時に、入学者の多様性を確保するため、新たな付属校や系列校の設置を引き続き検討するとともに、指定校推薦入試など、一般選抜入試以外による入学者比率を高め、それによって高校との一層の連携を推進します。

(5) 多様な教員組織

多様性と包摂性の重要性を踏まえ、本学の個性が発揮できる多様で魅力的な教員組織の在り方を検討し、その具体化に着手します。

(6) 戦略的広報の展開

明治大学のプレゼンスを高めるために、本学の持つ知と情報を国内外の社会に向けて、効果的な媒体を活用して積極的に発信します。

(7) 教育研究の安定的な維持継続、拡充のための施策

教育研究の安定的な維持継続、拡充のために、多角的視点で収入増に資する取組みを推進します。

Ⅲ 教育

各学部等の独自性と自主性を保ちつつ、本学が有する総合性と多様性を活かして、強くしなやかに連携する教育体制を整備することによって、複数の視点を持ち、自ら考え、自ら未来を切り拓く力を備えた、世界社会においても活躍できる人材の育成を行います。

そのために、以下に掲げる事項を実現していきます。

1 海外大学と連携した教育プログラム

- (1) 海外大学との共同開講に関する先行事例調査
- (2) オンライン交流と実留学を組み合わせたプログラムの実施

2 メディアを活用した新たなカリキュラムや教授法の開発

- (1) オンライン授業のノウハウを生かした新たなカリキュラム及び教授法等の開発の推進
- (2) TA (Teaching Assistant) やSA (Student Assistant) 等による授業サポートを用いた教育手法の検討・開発
- (3) 国内外の大学とのメディア授業の共同開講やオンラインプログラムの提供
- (4) 科目等履修や単位互換等、柔軟な履修形態の検討

3 授業担当時間の削減

- (1) 各学部・各研究科におけるカリキュラム改定の実施
- (2) 開講授業時間数の再検証
- (3) 責任担当時間の引下げ時期の検討

4 アクティブ・ラーニングの推進及びアクティブ・タームの実質化

- (1) メディア授業に関する情報収集と推進
- (2) クォーター完結授業及びアクティブ・タームに関する調査分析
- (3) クォーター完結授業の事例集などによる全学的な情報共有
- (4) 「教員向け授業支援サイト」各コンテンツの内容の充実
- (5) 中央図書館1階マルチメディアエリア機能及び運用の検討
- (6) 生田センターフォレストのラーニング・コモンズ機能の検証と今後の運用方針策定

5 海外留学プログラムや海外留学のための語学力強化プログラム

- (1) 学生の留学経験者比率50%達成に向けた施策の実施
- (2) 学生の語学力達成者比率40%に向けた施策実施
- (3) 留学相談会の開催、留学準備支援体制の拡充
- (4) 新たな留学支援制度の検討及び実行
- (5) アセアンセンターでの学生交流プログラム実施及び支援、広報活動の実施

6 多様な入学者の確保

- (1) 指定校の拡充
全学型の指定校推薦の候補校との協議・調整
- (2) 外国人留学生の確保

- ア 外国人留学生比率（数）13%、4,000人達成に向けた施策の実施
 - イ 外国人留学生（大学院生を含む）に対する日本語科目の提供
 - ウ 日本語e-ラーニングコンテンツの拡充、日本語短期研修プログラムの実施及び検証、渡日前入試及び海外指定校入試の拡充
- 7 学部・研究科の枠組みを越えた教育（共通科目・AI教育・プログラム型大学院）**
- (1) データサイエンティスト養成に資する教育プログラムの検証・改善
 - (2) 学部間共通外国語科目のうち学部では設置されていない外国語科目について、学生の多面的な語学能力、真の国際感覚の養成にさらに重点を置いた検証・検討
 - (3) 大学院数理データサイエンス人工知能プログラムの実施・改善
 - (4) 新しいリテラシー教育の検証と今後の方針策定
 - (5) オンライン・レファレンスシステム導入の検討
 - (6) 博物館常設展示の刷新に合わせた教材及び教育プログラムの開発と活用
- 8 FDに関する計画**
- (1) 授業改善アンケートの実施率の改善
 - (2) 教員研修会、講演会、シンポジウムの継続的な開催
- 9 質の高い教育研究・学生の学修のための学術情報基盤整備**
- (1) 学習用電子資料の拡充
 - (2) 新しい蔵書管理の運用

IV 学生支援

学生一人ひとりの多様性や資質に即した教育基盤としての学生支援の強化・充実を図ります。また、学生の成長や相互作用（ピア・サポート）に着目した学生支援の方策も展開します。

そのために、以下に掲げる事項を実現していきます。

- 1 組織横断的な学生支援体制の確立**
- (1) スチューデントセンター（仮称）建設に向けた関係機関との折衝
 - (2) 海外留学中の学生へのオンライン個別キャリア相談及び支援行事の実施
 - (3) オンラインキャリア相談利用学生へのヒアリング及びアンケート結果に基づいた学内関連部署・機関等との連携の検討及び体制整備
- 2 多様な学生がそれぞれにスポーツを主体的に楽しむことのできる環境整備**
- 生田キャンパス内練習施設の整備
- 3 多様性の尊重と包摂性に基づくキャンパス環境整備**
- (1) 「おゝ明治奨学金」学生寮とのタイアップ継続
 - (2) 奨学金業務に特化した事務組織の検討
 - (3) 奨学金制度の統廃合の検討
- 4 学生自らの成長と自己実現、グローバルな資質・対応力の向上（ピア・サポート活動）の推進**

- (1) 学内ピア・サポート活動推進体制の整備と活動の推進
 - (2) M-Navi プロジェクトの継続実施・検証・改善
 - (3) 全学的なピア・サポート活動推進計画に沿った推進
 - (4) 異文化交流プログラム・イベントの実施
 - (5) 学生同士のピア・サポート、ピア・ラーニングによる異文化プログラムの実施
- 5 遠隔相談・支援システムの構築**
- (1) 遠隔相談の実施・充実
 - (2) 遠隔相談システム構築のための電子カルテ及びオンライン予約システム導入と利用の推進
 - (3) 学生相談室の修繕・改築・増設
- 6 留学に挑戦する学生及び外国人留学生への支援等**
- (1) 外国留学に対する経済的支援政策に基づく給付
 - (2) 外国人留学生に対する経済的支援政策（第3期）に基づく給付及び2026年度からの新たな枠組みによる経済的支援の準備・実行

V 研究

10学部16研究科が支える自然・社会・人文・応用科学と社会における実践的知見がしなやかに緊密に協働できる研究体制を構築します。また、世界レベルの研究を推進するとともに、目標数値に縛られず、特色ある多様な研究にも支援を広げ、真に双方向的、創発的、永続的な国際研究ネットワークを拡充します。

そのために、以下に掲げる事項を実現していきます。

- 1 既存の研究分野の枠を超えた従来の教育では成し得ない卓越した人材を育成するためのプログラム推進**
- (1) 共創・学際的研究拠点の推進
 - ア 研究クラスターの評価・検証に基づく、グローバルな共創・学際的研究拠点の設置・展開
 - イ 特別推進研究インスティテュートの新規設置に向けた審査・準備の継続
 - (2) 研究・知財戦略機構付属研究機関の整備
研究高度化のための支援の実施
 - (3) 日本学術振興会特別研究員への申請・採用支援策の充実・実施
 - (4) 博士後期課程学生に対するキャリアパス形成支援制度の実施
- 2 海外大学との国際共同研究・異分野融合研究を推進、FDの実施**
- (1) 国際共同研究・異分野融合研究の支援
 - ア 国際ジャーナル掲載を目指した論文作成等に資するFDの効果検証と改善
 - イ 国際共同研究・異分野融合研究を促進する研究分析ツールを活用した戦略的研究拠点の創設検討、同ツールを用いた研究支援策の検証に基づく国際化に向けた研究支援の推進

- (2) 戦略的な研究プロジェクトの展開
 - ア 戦略的研究プロジェクトの発足及び展開
 - イ 異分野・学際融合研究の拡充及び発展
- 3 共同研究・受託研究の推進と知的財産の適切な管理・活用
 - (1) 産官学連携活動及び知的財産戦略の推進
 - 研究成果活用促進センター、地域産学連携研究センターの活性化及び共同研究・受託研究増加策の実行
 - (2) 外部研究資金獲得支援の強化
 - ア 外部研究資金支援策の実施（間接経費、研究支援経費などの活用、UR A¹等の人的支援の拡張など）
 - イ 獲得した外部研究資金による研究プロジェクト推進策（バイアウト制度など）の実施
 - (3) 研究・知財戦略機構附属研究施設の整備
 - 附属研究施設の研究体制の整備・支援、共同研究等の推進
- 4 共同研究・受託研究の推進と知的財産の適切な管理・活用及び研究成果の社会還元・社会実装に関する計画
 - (1) 学内紀要を含む研究成果のオープンアクセス化促進に向けた適切な権利処理実行体制の整備
 - (2) リポジトリ申請フローの整備
 - (3) 国際ジャーナルOA（Open Access）論文投稿支援体制の検証と今後の方針策定
- 5 サバティカル研究制度の転換やクロスアポイントメント制度の導入
 - (1) 教員の国際的なモビリティ向上のため、研究の国際化に資する新たなサバティカル制度の構築及び教員モビリティを高める施策の実施
 - (2) 国際共同研究プロジェクト、研究成果の海外発信支援、海外の研究機関との連携等の推進
 - (3) 明治大学版クロスアポイントメント制度の実施（パイロットプログラム導入）

VI 社会連携・社会貢献

本学の圧倒的な人的資源、知的資産、ネットワークを活用すべく、学内諸機関がそれぞれの特性を生かしつつも柔軟に連携し、また国内外の社会とも連携を深めます。それによって、社会の諸問題の解決に貢献していきます。

そのために、以下に掲げる事項を実現していきます。

- 1 持続可能な開発目標（SDGs）達成に資する取組み
 - SDGs ウェブサイトの充実

¹ 「University Research Administrator」（大学などの研究組織において研究者および事務職員とともに、研究資源の導入促進、研究活動の企画・マネジメント、研究成果の活用促進を行って、研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化を支える業務に従事する人材のこと）

2 リバティアカデミー講座、地域連携推進センター事業のオンライン化及び全国展開の推進

- (1) リバティアカデミーにおけるオンライン講座の充実
 - ア 既存講座及び履修証明プログラムの各種見直しと質的向上
 - イ 拡充したオンライン講座の維持
- (2) 質的向上及び運営体制・財政基盤の強化
 - ア 連携自治体への積極的なリバティアカデミー講座及びオーダーメイドプログラムの提供
 - イ 学内他機関と連携した広報活動による全国からの新たな受講者獲得

3 本学の学術リソースの地域社会への還元（「明治大学博物館ONLINEミュージアム」におけるデジタルコンテンツの拡充）

- (1) 常設展刷新に伴うVR展示室の更新・公開
- (2) 収蔵資料3D画像・高精細画像の制作・公開
- (3) 「収蔵資料データベース」のデータ登録・公開

4 総合大学としての強みを生かした幅広い分野の地域連携事業の展開

- (1) 地域からの要請に基づく事業実施及び検証
- (2) 全学的地域連携事業の推進とより多様なニーズへの対応

5 自治体や産業界、地域住民、全国の父母会や校友会などを交えたネットワークの構築の推進

行政だけではなく、多様な主体と連携・協働する事業実施の実績に基づく、新たな地域連携事業モデルの構築と事業推進

Ⅶ 付属高等学校・中学校

明治高等学校・中学校は、明治大学の建学の精神を典拠とした「質実剛健」「独立自治」を校訓として、初代校長鶴澤総明先生訓話の一節「第一級の人物たれ」を精神的な指針として教育を展開してきました。これらの基本目的・理念を現代的に解釈した『『個』を育てる。『未来』へつなぐ。』として、明治大学の『『個』を強くする大学』の中核となる「個」を育成していきます。

1 国際教育と「主体的・対話的で深い学び」を目指した探究学習の推進

- (1) 英語4技能の能力伸長に向けた施策実施
- (2) 新たな国内研修プログラムの実施
- (3) 新たなグローバル対応の施策や新規海外研修の実施
- (4) 「探究選択科目」による主体的・対話的で深い学びの推進・実践

2 ICT教育の推進

校長を中心とする校内ICT本部を組織し、生徒一人一台PC導入と今後のICT教育およびDXに関する総合的検討

3 直系付属校としての高大連携の充実

- (1) 高大連携講座の2学年分割履修による進路指導と付属校教育の一体的改革

- (2) 高大連携事業と他大学併願の効果検証と更なる充実
- (3) 卒業生組織「総明会」との連携

4 教育環境の整備

- (1) 各種保守整備計画の策定と実施
- (2) スクールバスの効率的かつ安定的な運用の継続検討

VIII 管理・運営

1 ガバナンス体制

- (1) 日本私立大学連盟「私立大学ガバナンス・コード」の実施項目遵守状況の点検及び改善
- (2) ガバナンス強化のための体制作りの検討・実行
- (3) 内部統制システムの整備及び運用
 - ア 経営に関する管理体制
 - イ リスクマネジメントに関する体制
 - ウ コンプライアンスに関する管理体制
 - エ 監査環境の整備（監事の監査業務の適正性を確保するための体制）

2 情報化戦略

- (1) ITマネジメント改革
 - ア プログラム全体推進・システム全体最適に向けた方針策定と推進・調整
 - イ 業務改革とシステム改修を連動させる体制の構築
 - ウ IT人材育成教育プログラムの運用
- (2) 情報活用
 - ア データ基盤整備の運用開始
 - イ 法人経営の可視化支援を目的とした大学IRの運用開始
 - ウ 教学IRデータベースとの横断的データ参照の実現
- (3) コミュニケーション改革
 - 情報共有協働環境整備
- (4) 生成AIの活用
 - ア 生成AI活用による業務改善のための利用環境の構築、ツールの開発
 - イ 生成AI利用ガイドラインの制定、研修計画の策定及び実施

3 多様性の尊重と包摂性の理念を踏まえた教員組織の在り方

- (1) 教員任用計画に基づいた運用
- (2) 女性教員比率・外国人教員比率の実績値に応じた新たな教員比率に関する数値計画の決定及び実施

4 職員人事政策

- (1) 全学的な業務改革の推進
- (2) 自主研修と連携した業務改革の検討・推進
- (3) 新たな資格体系の構築と役割の明確化を通じた給与体系の整備

- (4) 非専任職員の活用方策の実施
- (5) 複線型人事制度の在り方に関する検討
- (6) 役割発揮を誘引するための環境整備の推進
- (7) 新たな研修制度を構築し、新規価値を創造できる人材育成
- (8) 組織の多様性向上を見据えた方策の検討及び実施
- (9) 職員意識調査の実施

5 事務組織改善

事務組織改善の実施に向けた諸手続きの実施及び検証

6 戦略的広報体制

- (1) オウンドメディアの連動性を強化し、遷移傾向等の分析を行い、さらなる改善・改修を実施
- (2) 地方エリアを対象とした「教育」「研究」「国際」ブランディング施策の実施
- (3) 大学全体での新たなブランド戦略的調査実施に向けた企画・検討
- (4) 広報紙誌のWEB化施策の実施
- (5) 次期ホームページのリニューアルの実施

7 付属校政策

- (1) 付属校・系列校候補校の調査及び検討
- (2) 新たな付属校・系列校の設置に関する基本方針の策定
- (3) 明治大学付属世田谷高等学校の開設と受け入れ開始に向けた準備

8 校友会・父母会との連携強化

- (1) 過年度までの校友連携強化策の成果の検証と改善策の実行
- (2) 過年度のアンケート分析に基づく、ホームカミングデーの若手校友及び女性校友参加率向上策の実施
- (3) 過年度のアンケート分析に基づく、ホームカミングデー以外の若手校友及び女性校友対象イベント参加率向上改善策の実施
- (4) 過年度のアンケート分析に基づく、若手校友・女性校友と準校友（在学生）とのつながりを強化するための仕組みの改善
- (5) 「元父母の会」の発展

9 校史編纂及び大学アーカイブズ事業の推進とステークホルダーへの公開

- (1) 創立150周年を見据えた大規模校史編纂事業の推進
 - ア 150年史編纂担当事務局設置及び本編纂の開始（第2年度）
 - イ 校史執筆典拠資料整備の完了
- (2) 大学アーカイブズで蓄積した資源の公開と本学を構成する様々な人物の人物常設展示施設の設置検討
 - ア 「明治大学人物山脈150プロジェクト」インタビュー公開及び顕彰
 - イ 「明治大学人物記念館」展示の実施及び人物記念館構想の準備
- (3) 全学横断的な「校史・文化データベース」（仮称）の構築
 - ア 歴史編纂に資する文書の150年史編纂への活用及び一部デジタル化

IX 施設設備整備計画

大学における教育・研究内容は不断の更新と現代化が不可欠であり、新しい教育・研究には、それに相応しい施設・設備の充実が必要とされることから、継続的に施設・設備を最新化していくことが求められます。

各キャンパスの喫緊の施設整備課題に対応しながら、長中期的展望のもとに、創立150周年を見据えながら整備計画を検討・推進していきます。

1 施設整備計画

- (1) 駿河台キャンパス総合施設整備計画における新規建物の設計及び解体建物の移転先調整
- (2) 和泉・生田キャンパス関係施設の整備検討及び推進
- (3) 体育会関連施設（射撃場・弓道場、八幡山トレーニングセンター及び端艇部合宿所）の建設計画の推進
- (4) 旧山の上ホテルの利活用に向けた整備

2 修繕・改修計画

- (1) 中長期修繕計画の見直し
- (2) 中長期修繕計画に基づく計画的な修繕の実施
- (3) 改修計画の策定
- (4) 改修設計及びスケジュールの調整
- (5) 改修計画に基づく改修工事の実施

3 情報環境の整備・拡充

- (1) 無線LANアクセスポイントの適正配置
- (2) 持続的なセキュリティ対策の検討

4 環境保全

- (1) MEMS²の定着及び習慣化
- (2) カーボンニュートラルに向けた改善の実施（産業廃棄物30%削減、エネルギー使用量の毎年1%削減を継続）

X 財務関係

決算の収支差額でみると、2013年度、2014年度は支出超過となりましたが、2015年度以降は緩やかに回復し、コロナ禍の影響により14.6億円の収入超過に留まった2020年度を除き、財政健全化の傾向にあります。

2026年度予算の編成にあたっては、教育研究環境の整備を推進し、教育研究活動の持続性を一層強固なものとするため、長期ビジョンを具現化するための目標値を

² 「Meiji Environmental Management System」(2015年6月に構築した明治大学独自の環境マネジメントプログラム)

定めた第3期中期計画（2022年度から2026年度までの5年間の計画）に基づき編成することを目標とします。

なお、財務関係に係る2026年度の主な計画は次のとおりです。

1 収支改善

- (1) 基本金組入前当年度収支差額の改善（第3期中期計画に基づく前年度目標値比2.5億円増）
- (2) 予決算差異の改善（前年度比3億円の解消）

2 収入増加

- (1) 学費収入
 - ア 入学定員の確保
 - イ 学部学費定額漸増の継続検討
 - ウ 学部学費の改定の実施もしくは継続審議
 - エ 大学院学費の改定の実施もしくは継続審議
- (2) 補助金収入
 - ア 補助金配分基準ごとの達成度の把握
 - イ 新規達成が可能な配分項目の選出と達成に向けた各部署の取り組み実施
- (3) 収入事業
 - ア 受託研究の受け入れ拡大
 - イ 受託研修の新規受け入れ
 - ウ リバティアカデミー講座の内容・料金の見直し
 - エ 施設貸し出しの増収策の実行
 - オ 新たな収入確保の取り組み
- (4) 資産運用収入
新たな運用体制・方法による運用の実行（運用収入の維持・改善）

3 寄付金収入

- (1) 寄付金収入の増加
- (2) 寄付金募集体制の構築

4 支出の最適化

- (1) 予算配付額の見直し
 - ア 各学部の予算配付額の精査、配付基準の検討、改善を随時実施
 - イ 各予算主管の執行状況の精査、配付基準額算出の検討、改善を随時実施
- (2) 人件費の最適化
 - ア 教学と共同での教員人件費総額を勘案した計画の検討
 - イ 適正な人件費計画の検討
- (3) 規程に基づく経費予算の見直し
 - ア 規程の内容とその支出額の精査
 - イ 関係部署と問題共有、改正内容の調整
 - ウ 規程改正とそれに基づく支出予算の変更

5 資金計画

- (1) 施設整備計画に基づく引当特定資産の管理
- (2) 情報整備計画に基づく引当特定資産の管理

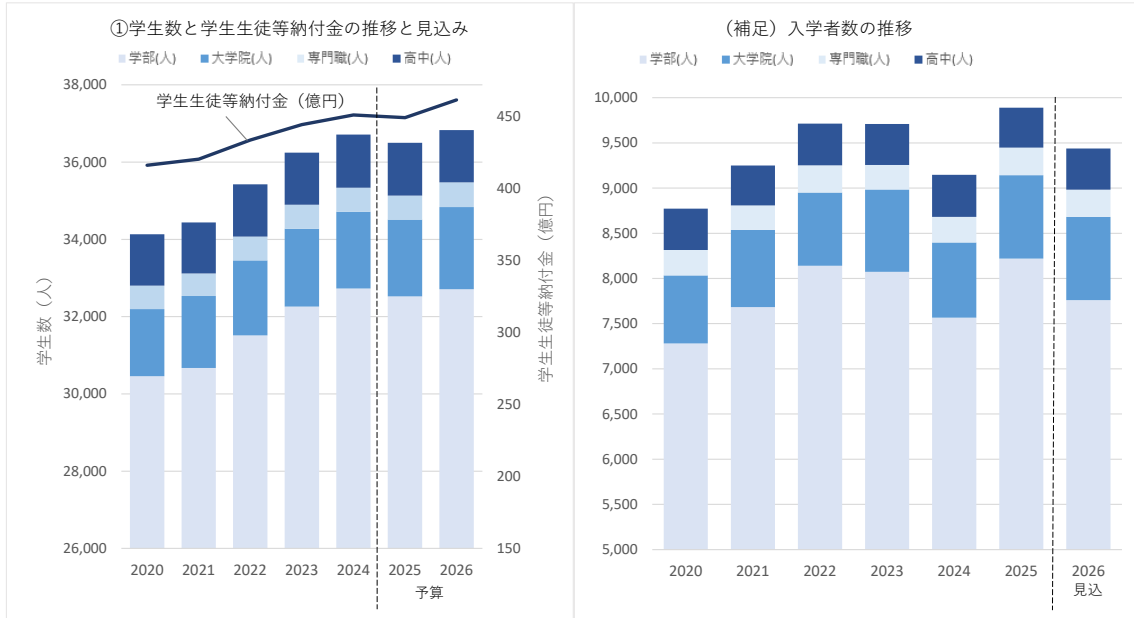
主な項目の推移

2026年度予算の主な項目に係る推移は、以下のとおりです。

(1) 収入関係項目

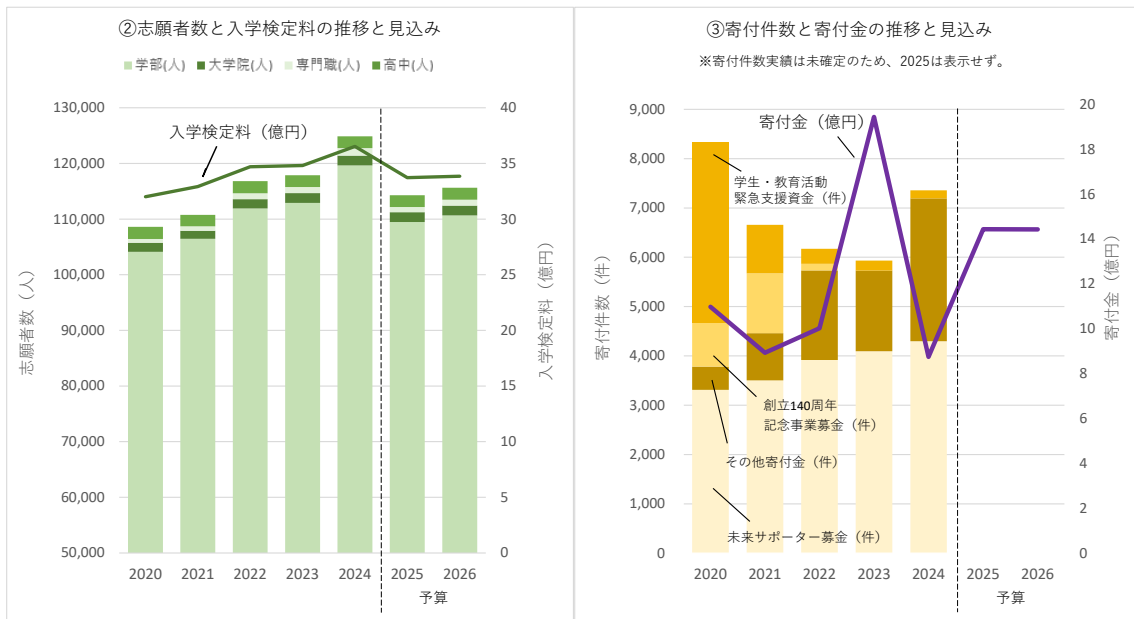
① 学生生徒等納付金・・・461億5千万円

(学生数3万7千人、入学者数9千4百人)

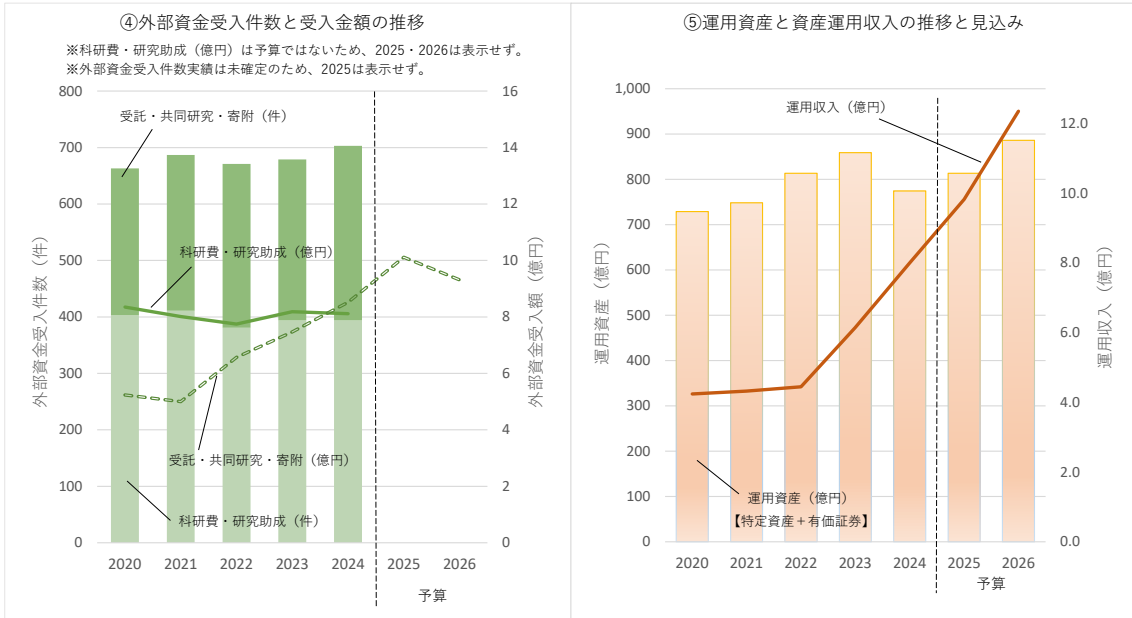


② 入学検定料・・・33億9千万円 (志願者数11万6千人)

③ 寄付金・・・14億4千万円

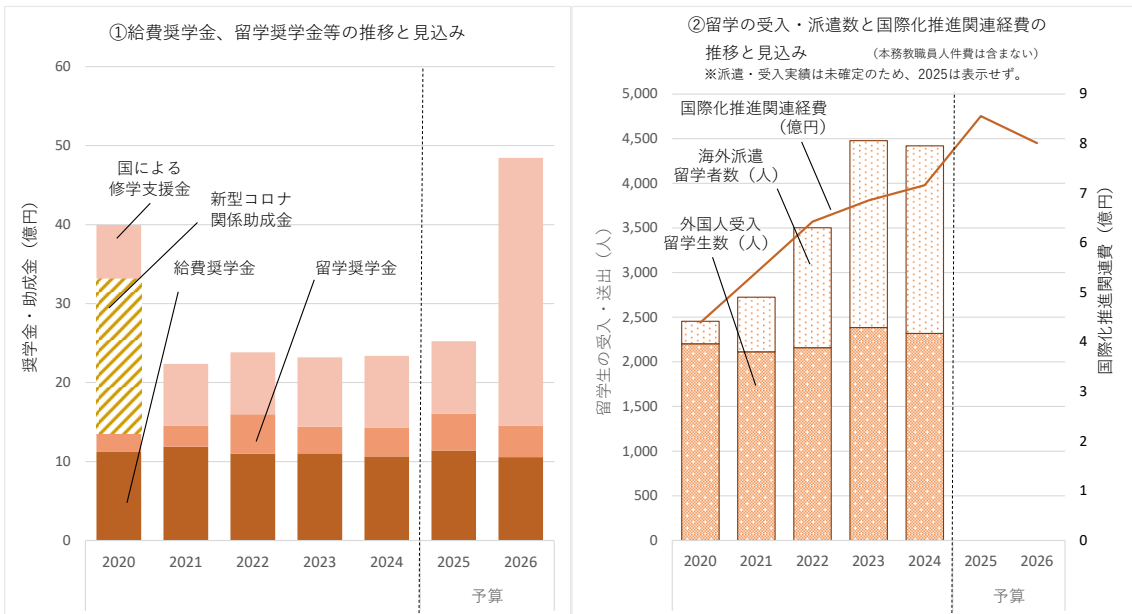


- ④ 外部資金受入・・・受託・共同研究・学術奨励寄付 8 億 5 千万円（2024年度実績）
 科研費・研究助成 8 億 1 千万円（2024年度実績）
- ⑤ 資産運用収入・・・運用資産 885 億 8 千万円・資産運用収入 12 億 4 千万円



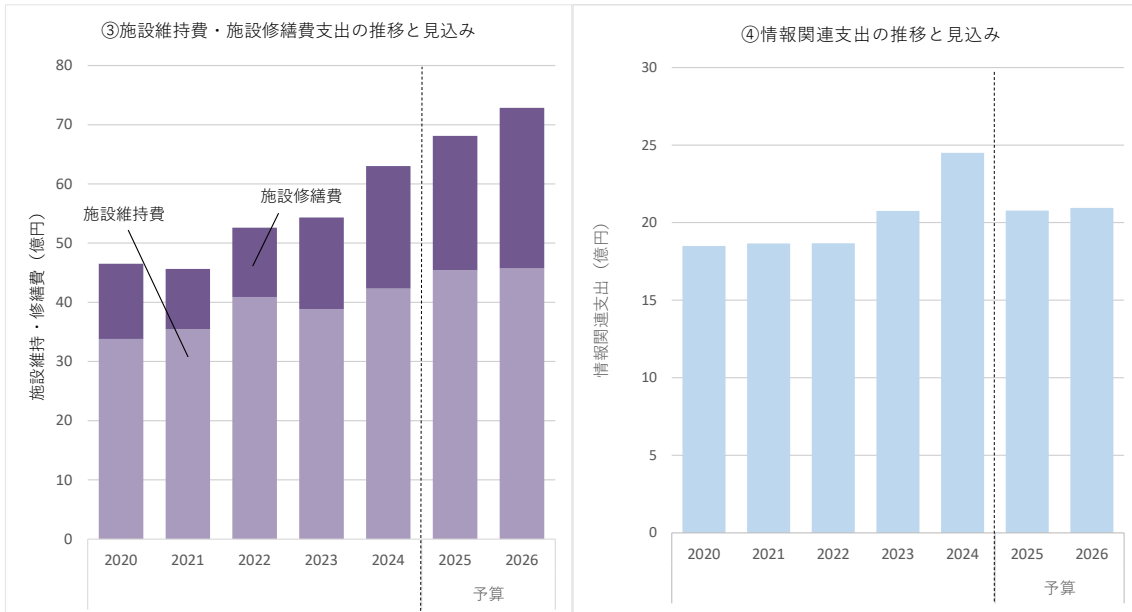
(2) 支出関係項目

- ① 給費奨学金、留学奨学金等（48億4千万円）
- ② 国際化推進関連経費（8億円）



③ 施設維持費、施設修繕費支出（72億9千万円）

④ 情報関連支出（21億円）



以上